

## 東北を代表する神楽が2月20日から中欧2か国で公演

～黒森神楽（国指定重無民文化財）と上町法印神楽（海外初公演）、ハンガリー・ポーランドへ～

国際交流基金は、2019年2月20日にハンガリー（ブダペスト）で、23日からポーランド（ワルシャワ・グダンスク）で神楽公演を開催します。ハンガリーとの外交関係樹立150周年、ポーランド国交樹立100周年を記念して行われるもので、両国との交流史上初の本格的な神楽の海外公演であり、出演団体は、岩手県の黒森神楽と宮城県の上町（かまち）法印神楽です。（出演団体の詳細は、次頁に記載。）

本事業では、ハンガリーとポーランドで、神楽を上演するとともに、その背景を多面的に紹介します。両国では、現地主導でオリジナルの能が創作されるなど、日本の伝統文化が親しまれています。特にポーランドでは、民俗音楽や舞踊が芸術創造の源泉となってきた点が見直され、その価値が再注目されています。こうした背景をふまえ、能や歌舞伎の祖の一つとされる民俗芸能「神楽」に焦点を当て、公演をはじめ、文化背景を伝える展示やドキュメンタリー映画『廻り神楽』の上映、現地の民俗舞踊団や身体表現を学ぶ大学生との交流セッションを行います。

現在も地域コミュニティの要として機能しつつも異なる特徴をもつ神楽2団体による公演は、日本でも珍しいものです。両神楽とも10代から20代の若手が活躍していることにもご注目ください。東日本大震災後、被災した人々や神楽団を支援するなど、復興の活力として人々を支えてきました。震災時に温かい支援をくれたポーランドとハンガリーにおいて、東北に根付く神楽の舞で感謝を伝え、節目を祝い、次の100年・150年の友好と泰平を祈ります。



記

事業名称：祈りと祝い—東北に息づく神楽の伝統—

主催：国際交流基金

公演日程・会場：2019年2月20日（水）ヨージェフ・アッティラ劇場（ブダペスト）

23日（土）ポルスキ劇場（ワルシャワ）

26日（火）シェクスピア劇場（グダンスク）

交流事業：映画・演劇大学（ブダペスト）、ワルシャワ工科大学（ワルシャワ） ※予定

共催/協力：在ポーランド日本大使館 / 在ハンガリー日本大使館、(株)ヴィジュアル・フォークロア

以上

この件に関するお問い合わせ：

国際交流基金 コミュニケーションセンター（広報担当：熊倉）

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044

E-mail: press@jpf.go.jp



KUMAKURA

両国は民俗芸術  
能や民族音楽  
が深く息づい  
ている場所。  
日本の神々の  
芸能はどうか  
受け入れられ  
だろうか？

取材のお願い

2019年2月17日（日）、都内にて（会場未定）、プレス取材の機会を設けます。  
取材をご希望の方は前頁お問い合わせ先までご連絡ください。

### 黒森神楽（岩手県宮古市）

本拠とする黒森神社の神様を移した獅子頭を携え集落に出向き、人生の節目を寿いだり、祈禱して心を慰めたりして廻る神楽。黒森神楽が訪ね廻る地域は特例的に広く、約340年前に決められた範囲を現在も継承していることから、その価値が高く評価され、国の重要無形民俗文化財に指定されている。夜神楽の舞は力強く優美で演目も豊富。震災のわずか3か月後には活動を再開し、被災した人々を元気づけてきた。2011年にはロシア、2012年にはフランス、米国でも公演し、被災地を代表する芸能として、感謝や復興の様を伝える役割も積極的に担ってきた。2017年には黒森神楽の活動の様子を追ったドキュメンタリー映画『廻り神楽』が話題を呼び、キネマ旬報2017年文化映画ベストテンにも選出されるなど、全国的に注目を集めている。



### 上町法印神楽（宮城県登米市）

本拠とする稲荷神社の境内に専用の木造舞台と美しい吊り物を設え、そこに神様を招いて奉納される。美しい演舞やアクロバティックな殺陣、観客とのインタラクティブな掛け合いが特徴。若手から中堅の人材を中心とした活動により幅広い年齢層から親しまれるなど、地域の活性化にも貢献している。震災後は被害の大きかった沿岸の神楽団の活動再開に向けたサポートも、積極的に行ってきた。今回が初の海外公演となる。

